

筑前劔嶽城と豊前上仏来山城の平面構造について

岡寺, 良
九州大学大学院人間環境学府空間システム専攻博士後期課程

<https://doi.org/10.15017/26771>

出版情報：都市・建築学研究. 22, pp. 79-83, 2012-07-15. 九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門
バージョン：
権利関係：

筑前劔嶽城と豊前上仏来山城の平面構造について

Ground Plan of *Chikuzen-Tsurugidake* Castle and *Buzen-Kanbuku-san* Castle

岡寺 良*

Ryo OKADERA

Abstract

There are nearly 1,000 *Sengoku* era (the period of provincial wars) castles in Fukuoka Prefecture. *Chikuzen-Tsurugi-dake* castle (筑前劔嶽城) and *Buzen-Kanbuku-san* castle (豊前上仏来山城) are ones of them. They did not have received scholarly attention because of their small-scale.

However, investigation of both the castles' ground plan by author had proved that this castle has highly strengthened its defense by equipped with *une-ryo karabori* (a group of longitudinally-extending dry moats).

Moreover, it was concluded that warlords *Akizuki* (秋月) Clan repaired the moat positively in the last stage of *Tensho* era (the 1580s) for the purpose of boundary domain defense, since both castles were located in the "castle of a boundary line".

Keywords:

Sengoku era castle, *une-ryo karabori* (a group of longitudinally-extending dry moats), ground plan, warlords *Akizuki* Clan

はじめに

福岡県内には、約 1,000 箇所前後の中近世の城館跡が知られている^{1,2)}。筆者は、それらの中でも、特に戦国期国人領主・秋月氏の城郭の縄張り調査を精力的に進め、

2006 年段階において秋月氏の城館構成のモデルを提示した³⁾(図2)。その概略を示すと、以下のとおりである。まず秋月氏の領域の設定として、天正15年(1587)に秋月氏が豊臣方に差し出した『生駒雅楽頭宛覚書』に



<図1 凡例>

● 畝状空堀群を持つ城郭

1. 古処山城◎, 2. 荒平城, 3. 益富城◎, 4. 小鷹城◎,
5. 片山城◎, 6. 松尾城, 7. 高鼻城, 8. 真竹城◎,
9. 針目城, 10. 長尾城◎, 11. 鶴木城◎,
12. 鷹取山城, 13. 妙見城◎, 14. 岩屋城◎,
15. 高鳥居城, 16. 笠木山城◎, 17. 龍ヶ城◎,
18. 祇園岳城, 19. 鷹取城, 20. 戸代山城

○ 畝状空堀群を持たない城郭

21. 馬見城, 22. 麻天良城◎, 23. 本陣山城,
24. 茶臼山城, 25. 鳥屋ヶ嶽城◎, 26. 村上城,
27. 米山城◎, 28. 夕月城, 29. 池田(三日月)城◎,
30. 千手城, 31. 長谷山城, 32. 日野山城,
33. 宝満城◎, 34. 鬼杉城, 35. 懸尾城,
36. 米の山城, 37. 扇山城, 38. 白旗山城,
39. 筒見城, 40. 岩石城, 41. 城平城

◎は「生駒雅楽頭宛覚書」に記載された城郭。それ以外は、『筑前国続風土記』等の近世地誌類によって秋月氏の城郭とされるもの(文献3の成果に準拠する)。

図1 劔嶽城・上仏来山城ほか秋月氏関連城郭位置図

* Department of Space System
空間システム専攻博士後期課程

挙げられた秋月氏の持ち城の一覧から、天正 15 年段階（秋月氏最終段階。九州征伐により秋月氏は日向へ転封される）の秋月氏の支配領域を推測し、その領域の城郭の縄張り調査を進めた。その結果、図 1 にあるように本拠にあたる古処山城、荒平城、益富城の 3 城（当主の居城（詰城と里城）、先代当主の居城）、さらには領域縁辺部（境目領域）にあたる城郭（高鳥居城、笠木山城、戸代山城、長尾城など、図 1 中の●印の城郭）に、城郭をより強固に防衛するための防御遺構としての畝状空堀群を確認した。その一方で、本拠領域と境目領域の中間に当たる中間領域の城郭（図 1 中の○印の城郭）には、畝状空堀群が使用されていなかったことを確認した。それによって、秋月氏の城郭のあり方として、領域内で最重要な「本拠」と、敵対勢力と最初に武力衝突が想定される「境目領域」に優先的に畝状空堀群を構築して領域を防衛する城館構成モデル（図 2）を想定した。

上記の検証により、秋月氏の城館構成モデルは十分に妥当性を持つと考えるが、さらに妥当性を高めるためには、境目領域の城郭の中でも、未調査である劔嶽城と上仏来山城の遺構を確認する必要があるため、今回、その調査・検討を行った。

劔嶽城は、福岡県鞍手郡鞍手町に位置し、『生駒雅楽殿宛覚書』にも鞍手郡劔山城（城主・重松駿河）とあり、

秋月氏の持ち城である。

また、福岡県田川郡添田町に所在する上仏来山城も中世城郭で、英彦山座主が立て籠もった城郭としても知られる存在である。また、戦国時代末期に英彦山座主になった舜有は、秋月氏の一族であり、上仏来山城も秋月氏に関連した城郭である。

また、これらの両城は、先に述べた秋月氏の領域の中でも「境目領域」にあたる。

以上のことから、本稿では、劔嶽城及び上仏来山城の現地踏査、平面図作成を行った調査成果を公表すると共に、両城の平面構造を考察する中で、先に示した秋月氏の城館構成モデルの妥当性を検証することを目的とする。

1 筑前劔嶽城の概要

筑前劔嶽城は、鞍手郡鞍手町に所在する劔嶽（標高 125m）の山頂部に位置する。『筑前国続風土記拾遺』によれば、15 世紀代の文明年間には宗像郡を本拠とする宗像氏の配下である野中勘解由が城主であったとするが、出奔して使用されていなかった（空城）が、16 世紀中頃の天文年間に秋月文種が押領して家臣の跡部安芸守を城代として置いたとし、豊臣秀吉の九州征伐時には先に述べたとおり、秋月氏の持ち城として、重松駿河が城主と

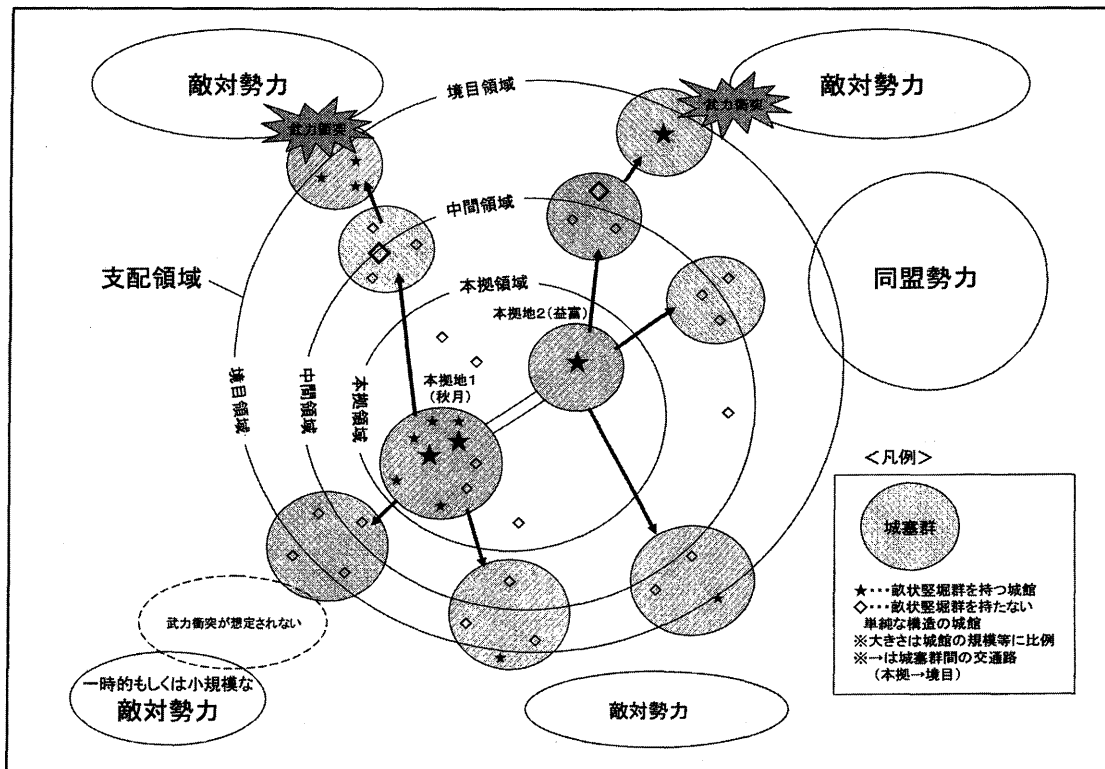


図 2 戦国期秋月氏の城館構成モデル図（文献 3 より引用）

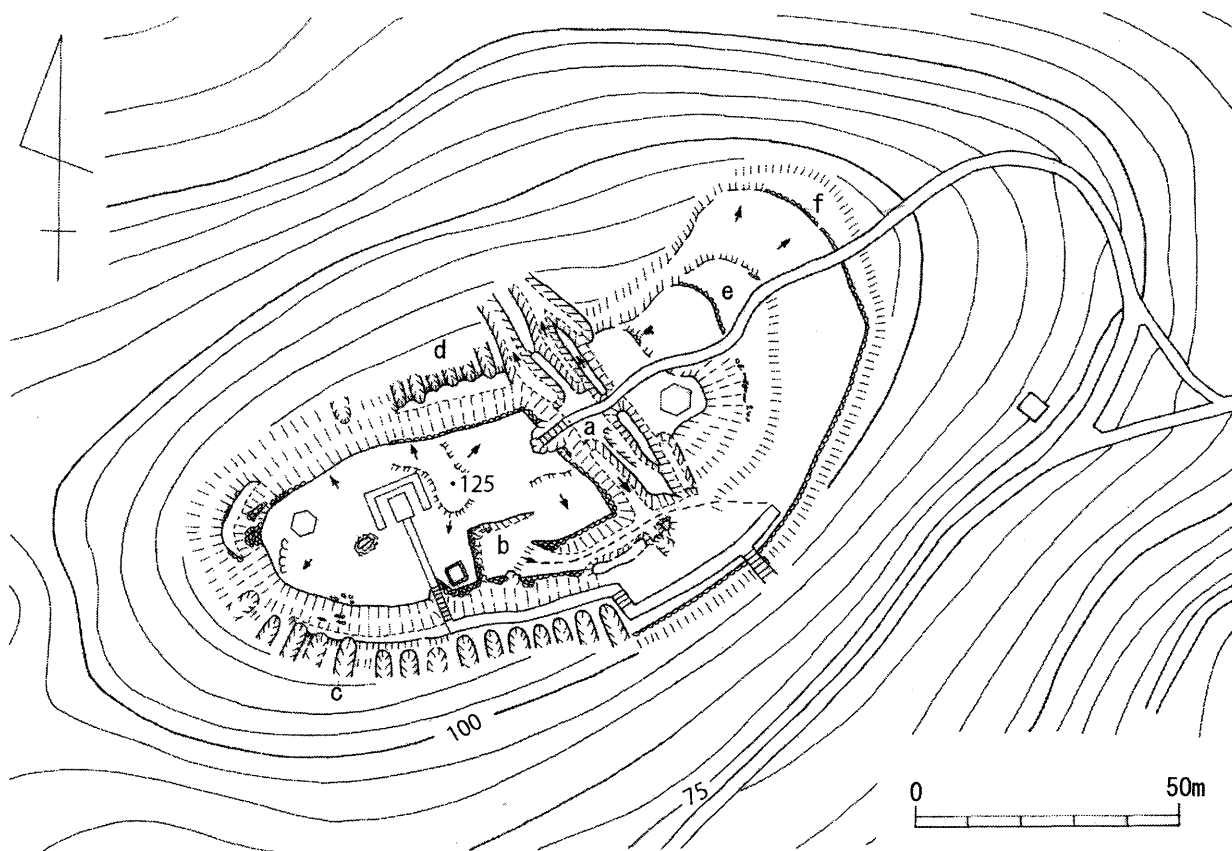


図3 劔嶽城縄張り図（岡寺作成）

なっている。その後については使用された記事もないため九州征伐の時点で廃城になったのであろう。

現在、山頂部には神社の祠が建っており、近世以降には神社境内となっている。

この劔嶽城については、過去には廣崎篤夫、中村修身が城の平面構造について検討している^{4,5)}。

2 劔嶽城の平面構造

筆者は2011年11月21日に劔嶽城の現地を単独で踏査し、縮尺1/1,000の平面図（縄張り図）を作成した（図3）。以下、この図に従って劔嶽城の平面構造を説明する。

劔嶽城は前述したように標高125mの山頂部に主郭を置いており、曲輪（平坦面）は主郭一つのみいわゆる「単郭構造」を呈する。主郭は東西約70m×南北約30mの規模で、周囲には石垣が築かれている。そして、主郭の東側は平坦な自然地形が続いており、それらを断ち切るように1本の堀切aと、竖堀が何本か確認することができ、東側からの攻撃を積極的に食い止める意図を看取される。

また、主郭の南東側には石垣を伴う大きな虎口状の出

入口bが確認できるが、小規模な曲輪には大規模すぎることもあり、また、この石垣の脇には江戸期の年号が入った鳥居が解体された状態で置かれているため、おそらく後世の神社遺構である。

さらに、主郭の南側と北側の斜面には、約20本の畝状空堀群c・dがある。畝状空堀群は、主郭の南側斜面cに15本、北側斜面dに6～7本確認することができる。これらの竖堀状を呈する空堀群は斜面からやや下った低い箇所に位置し、長さも約5mと、他の事例に比べて短い、非常に整然と一定の間隔をもって配置されている。南側斜面の東端は後世の園路造成のために不明瞭になってはいるものの、畝状空堀群は曲輪を取り囲む意図で配置されていたのであろう。

また、主郭の東側にある自然地形の緩斜面には、石列e・fが見られるが、城郭の縄張りとは噛み合っておらず、後世の耕作もしくは公園造成によるものである。

以上のように、劔嶽城は、単郭構造であって決して大規模な城郭とは言えないが、特徴的な遺構として、畝状空堀群があげられよう。

3 上仏来山城の概要

上仏来山城は、全国的にも霊山、修験道の山として知られる彦山の北側前面に位置する独立峰・上仏来山の頂上に立地する。その場所からも分かるとおり、霊山・彦山を防御するために築かれた城郭で、天正9年(1581)に豊後の大友宗麟が彦山を焼き討ちする際に、座主舜有が大友氏からの攻撃に備えて築かれた城郭であると見られる。

さらに、その後天正12年にも普請された記事が見られ(「刀衆為前代記之」)、また、後世の軍記物(「豊臣鎮西軍記」など)では、天正15年の豊臣秀吉の九州征伐時には、豊臣方に降伏の意を伝えるも当初は秋月方と見られ、攻撃される寸前にまで至ったとされており、詳細は不明ではあるものの、この段階まで秋月氏の関連城郭として機能している。

この上仏来山城については、過去に山本義孝・木村達美らが作成した図aと、片山安夫が作成した図があるが、遺構の解釈に相違があったため、2012年2月に筆者が改めて再踏査し、山本・木村作成図を元に、新たに図面を作成した(図3)。次に、その図を元に城郭の構造

を説明する。

4 上仏来山城の平面構造

上仏来山城は、山頂部(標高685m)に位置する。城郭の中心をなすのはAの主郭で、基本的にはAの曲輪とその周りに小規模な平坦面群が見られるいわゆる「単郭構造」を呈するものである。Aの周囲には土塁あるいは石垣状の遺構が見られるが、これらは近世以降に置かれた上津神社に伴うものであり、実際にAには石祠が安置されている。

先述したように、Aの周囲には小規模な平坦面群があつて、さらにその周りには顕著な防御遺構がある。

まずAの南側、B地点には城の出入口である虎口が見られ、石垣で固められており、ここを通過して英彦山本体への道が続いている。いわゆる「内枳形」ではないが、城郭へ導入する主要なルートを防御するためのものである。

また、曲輪の南側斜面には、長さが20m程もある畝状空堀群Cがあつて、縦堀9本を確認することができる。また、南西側の尾根続きを断ち切るように1本の堀切D

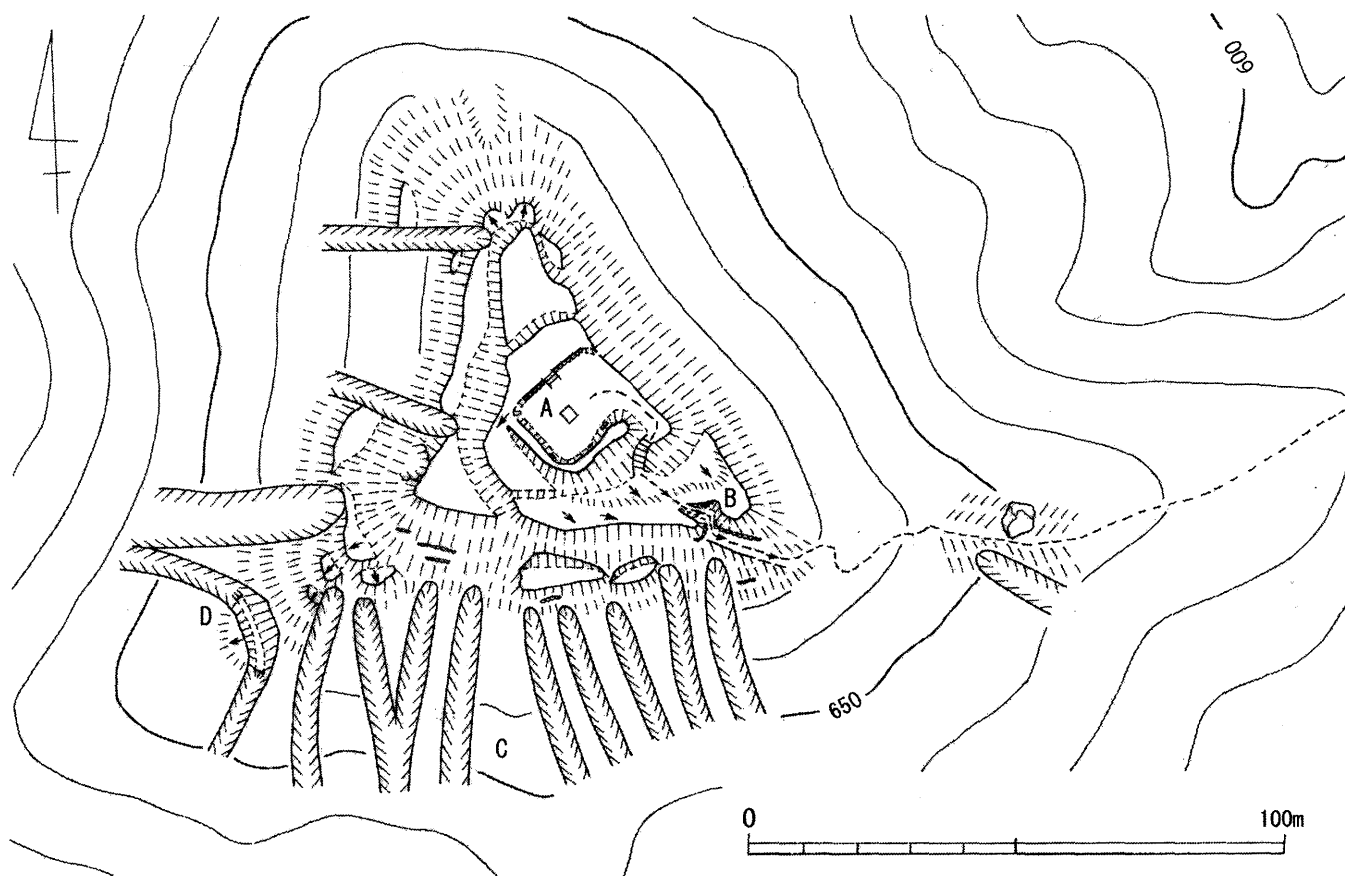


図4 上仏来山城縄張り図(岡寺作成)

もあって、南～南西側からの攻撃に対する積極的な防御の姿勢を窺うことができる。また、西側斜面にも散発的に堅堀状の遺構を確認した。

過去の図面にはこれらの畝状空堀群が図示されたもの⁸⁾とされていないもの⁹⁾があったが、今回の調査によって、その存在を確実に確認した。

おわりに

以上のように、劔嶽城と上仏来山城の構造について見た。その結果、想定したように双方の城郭に、畝状空堀群の圍繞により嚴重に防御されている平面構造を確認した。

このことは秋月氏の支配領域の北東端と南東端の2城に畝状空堀群の存在が確認できたことを示している。このことによって、筆者が図2として示した秋月氏の城館構成モデルについて、さらにその妥当性が増したと言える。これが本稿における当面の結論である。

筆者が、秋月氏の城館を調査し、このような城館構成モデルを構築する最大の理由は、文献などからでは具体的には解明できない城郭政策の実態を、戦国期城館の平面構造（縄張り構造）から描き出すことにある。特に秋月氏の城郭は、最終段階の城郭遺構が良好に残されており、またその支配領域についても『生駒雅楽頭殿宛覚書』のような文献史料にも恵まれており、城館構成モデルを構築する上では、格好のケーススタディである。

かつて文献史学においては領国防衛モデルとして、寄親寄子制などに基づく単純な同心円状のモデルが提示されてきた。しかし、今回の探求・分析によって、このようなモデルとはかなり様相の異なるモデルが提示できそうである。

今後の展望としては、これを実証性の高いものとしていくことはもちろんのこと、他地域、他勢力においても同様の検討・分析を行っていくことによって、いくつかのモデルパターンを抽出し、戦国領主層の領国支配の実態や多様性をより鮮明に解明していきたい。

文献

- 1) 岡寺良、下高大輔：福岡県・筑前地域の中近世城館遺跡・調査・研究の現状と課題(1)、古文化談叢、第61集、pp.179-200、2009年3月
- 2) 岡寺良、下高大輔：福岡県・筑後/豊前地域の中近世城館遺跡・調査・研究の現状と課題(2)、古文化談叢、第64集、pp.107-128、2010年6月
- 3) 岡寺良：戦国期秋月氏の城館構成・福岡県朝倉市・杷木地域を事例に、城館史科学、第4号、pp.1-24、2006年7月
岡寺良：北部九州の戦国期城館の分布と構成・筑前秋月氏の城館を事例に、第23回 全国城郭研究者セミナー・シンポジウム「城館の分布から何がわかるか」大会資料、pp.38-47、2006年8月
- 4) 廣崎篤夫：劔嶽城（劔城・中山城）、福岡県の城、pp.212-214、1995

年4月

- 5) 中村修身：劔嶽城、福岡県の城郭、p.114、2009年10月
- 6) 片山安夫：修験遺跡に見る防御遺構・彦山 上仏来山城、地域相研究、第26号、pp.35-54、1998年8月
- 7) 木村達美：上仏来山城、福岡県の城郭、p.65、2009年10月
岡寺良 2012「戦国期城郭としての筑前益富城」
- 8) 6)に同じ。
- 9) 7)に同じ。

(受理：平成24年6月7日)